



地図帳のページ	問いの番号	問題	解答	ワンポイント解説
129-130	45	②図の変動帯の地形的特徴を①図から読み取ろう。	標高が高い地域が多い。	⑤図のプレートの種類を参考にして考えることができる。造山運動の盛んな標高の高い地域が多いことを大観する。
131-132	46	扇状地ではどのような土地利用が多くみられるだろうか、読み取ろう。	果樹園	れき層が堆積し、水はけのよい扇状地では、果樹園、かつては桑畑などの土地利用が見られ、水田は少ない。
131-132	47	河岸段丘のXの面とYの面では、それぞれどのような土地利用が見られるだろうか、読み取ろう。	Xの面では水田や畑、Yの面では畑が見られる。	氾濫原となるXの面では、水が得やすいため水田が、段丘面となるYの面では、標高が高いため水が得にくく畑の土地利用が見られる。
131-132	48	東日本大震災の際に液状化した場所は、かつてはどのような地形だったか、読み取ろう。	かつての川の跡（三日月湖）	土地の履歴を知る重要性に気づく。かつての河道、埋立地は軟弱地盤であることが多く、地震などの揺れで液状化が発生するリスクが高い。
131-132	49	1952年と2001年を比較しても最も変化が少ない土地利用とその土地利用はどのような場所に広がっているか読み取ろう。	水田。水田は他の地域と比べて標高の低い谷地形（谷津、谷津田）に広がる。	小川を中心に広がる水田は、1952年からほとんど変化していないことが読み取れる。写真やイラストと合わせて理解する。
133-134	50	工の写真を見て、氷河は5年間でどのように変化しているだろうか、読み取ろう。	後退している。	地球温暖化の影響で氷河が溶けて後退している。北極の氷やグリーンランドの氷河などが溶けることで、海面上昇や生態系の破壊などが問題となっている。
135-136	51	経度0度～東経20度の地帯では、赤道から北極に向かうにつれて気候と植生は、どのように変わるだろうか。②図と比較して考えよう。	赤道近くの低緯度地域は熱帯で熱帯雨林やサバナが広がり、北回帰線付近は砂漠気候で砂漠がみられる。緯度が高くなるにつれて樹林が広がる温帯気候や亜寒帯気候となり、さらに高緯度になると寒帯に属してツンドラがみられるようになる。	ケッペンの気候区分に使用されるアルファベットの1文字目では、赤道から順にA～Eが割り当てられている。
137-138	52	④図を見て、中緯度～高緯度地域では北半球の大陸の東岸と西岸ではどちらの方が年較差が大きだろうか。	東岸	偏西風と暖流の影響で海洋性の気候となる西岸では年較差が小さい。一方で、大陸性の気候となる東岸では年較差が大きくなる。
139-140	53	日本で最も広い平野はどこだろう。	関東平野	③図を参照すると、低地と台地に多くの人口が集中している。よって、低地と台地からなる関東平野は日本で最も人口が多い場所と言える。
139-140	54	M8.0以上の地震はどのような場所に多いだろうか。	日本海溝や南海トラフ付近の沿岸部	日本海溝や南海トラフ付近では、プレート境界型（海溝型）地震が多い。内陸部では活断層による地震が多く発生し、中には濃尾地震のようにM8.0を記録した地震もある。
141-142	55	津波避難タワーはどのような場所に建てられているだろうか。	高台の安全な避難所まで遠い場所	波線で囲まれた地区を見ると、高台の入野小学校まで遠く、避難が困難な住民が多くいることが分かる。そういった人のための避難所として建設されている。
143-144	56	冬と夏の季節風の風向きの違いと本州における日本海側、太平洋側の気候の違いを確認しよう。	冬は北西から、夏は南東から季節風が吹く。日本海側は冬に雪（降水量）が多く、太平洋側は冬に降水が少ない。	本州の中央は山脈や山地が連なり、風上側では降水量が多くなり、風下側では降水量が少なくなる。144p⑥、⑦の特徴を示した図を参照する。
143-144	57	9時と12時の降水量の分布から、この間に最も降ったエリアを囲もう。	山形県北部地域※省略でもよい	記録的短時間大雨情報の基準はおおむね1時間に100mmであるが、その強度の雨が長時間にわたって降っていることがわかる（線状降水帯の発生）。この場合、洪水や土砂災害などの災害情報に常に留意する必要があり、直ぐに適切な避難行動を取ることが重要とされる。
145-146	58	新宿区にある国立競技場と下町や東京低地の高低差をどれくらいあるだろうか。	約30m	下町や東京低地の標高を0mとすると、山の手に位置する国立競技場は、台地に位置するため標高が30m以上の高低差となる。下町と山の手という地名と標高を関連付けて理解する。



地図帳のページ	問いの番号	問題	解答	ワンポイント解説
145-146	59	東京都江戸川区では、洪水予測が9時間前に迫った(緊急)場合、どこへ避難すべきだろうか。	国府台台地、大島小松川公園、葛西南部地区	区では区外への避難を推奨しているが、判断がギリギリになった場合には近場での高い場所への避難としている。海拔0m前後の江東区にあって、大島小松川公園や葛西南部地区は標高5m前後である。また、国府台台地は20m以上となり場合によっては越境避難を想定して動かなければならない。
147-148	60	1人当たりGNIの違いに着目しながら、移住者はどのような国からどのような国へ移動しているだろうか。	1人あたりGNIの低い国から高い国へ移動している。	「どのような国」に対しては色々な説明の仕方ができてしまうため、「1人あたりGNI」という指標を出すことで答えやすくすることと、下地となっている階級区分図を凡例と合わせて参照するように促す。
149-150	61	どこからどこへの輸出額が大きくなっているのか、大きい順に三つ挙げよう (EU内、ASEAN内をのぞく)。	中国からアメリカ合衆国、EUからアメリカ合衆国、中国からEUの順で大きくなっている。	「1人あたり国民総所得 (GNI)」と関連づける。アメリカ合衆国やEU諸国は1人あたり国民総所得が高く購買力があるために、「世界の工場」とよばれている中国からの工業製品が多く入ってきている。
149-150	62	輸出入総額に占める日本の割合が10%以上の国を三つすべて挙げよう。	フィリピン、タイ、オーストラリア	アジア太平洋での貿易による結び付きが強くなっていることを確認する。発展的な学びとして、アジア域内では国際分業のもとで貿易が活発になっていること、オーストラリアでは日本の民間企業が日本向けに鉄鉱石、石炭、液化天然ガスなどの資源開発を行っていることなども目を向ける。
149-150	63	輸出入総額に占めるアメリカ合衆国の割合が15%以上の国は、どの地域に多いか確認しよう。	ラテンアメリカ・カリブ海諸国 (あるいは南北アメリカ)	ラテンアメリカの国々では、輸出品の中に農産物や資源といった一次産品、軽工業製品が含まれており、アメリカ合衆国に対する依存度が高い。
151-152	64	ヨーロッパでは、域内の旅行者が多い。その中でもイギリスとドイツ両方から多くの旅行者が訪れているのはどんな国だろうか？	スペイン、イタリア、フランスといった比較的低緯度の地中海沿岸諸国。	バカンスの期間は、日照時間が比較的長く冷涼なイギリスやドイツから、地中海性気候で日照時間が比較的長く温暖な南フランス、イタリア、スペインなどに移動しリゾートに長期滞在する傾向がある。気候などの自然環境が人々の経済活動に影響を及ぼしていることを理解する。
153-154	65	日本とモンゴルの主な食べ物異なる理由を、気候を手がかりに考えてみよう。	日本は高温湿潤のため稲作が盛んで米が主食である。一方で、モンゴルは乾燥地で農作物の生産が不安定なため、肉や乳の消費割合が大きくなる。	二つの地域の自然環境の比較を通して、「人間と自然環境のかかわり」という地理的な見方・考え方を効果的に醸成したい。比較対象は気候が大きく異なる地域が典型的で分かりやすいため、食文化に関しては高温湿潤の日本と乾燥地のモンゴルを、衣装に関しては高温湿潤の日本と寒冷地のアメリカ合衆国 (アラスカ州) を選定した。
155-156	66	世界の中で、米と小麦それぞれの生産量、移動量、主要栽培地の範囲がどのようにになっているか比較しよう。	生産量はどちらもあまり変わらないが、小麦の方が米と比べて移動量が多く、主要栽培地の範囲が広い。	米と小麦は主食となる穀物で共通しているものの、小麦の方が冷涼な地域で栽培できて栽培地の範囲が広いこと、食のグローバル化や歴史的背景から移動量が多いことなど、多面的・多角的に捉えることができる。
155-156	67	小麦、ぶどう、オリーブのうち、より北の地域で栽培されている作物はどれだろう。	小麦	小麦の栽培北限は北緯60度あたりで、高緯度で冷涼な地域でも栽培できる。一方で、ぶどうとオリーブの栽培北限はそれぞれ北緯50度、北緯40度あたりにみられ、ヨーロッパではさまざまな自然環境のもとで多様な食文化がみられる。
157-158	68	自動車が生産されている都市はどのようなところに分布しているだろうか。	豊田市周辺や広島市など、太平洋ベルト内を中心に分布している。一方で、狭山や太田といった内陸部にも分布がみられる。	経済のグローバル化の中で、常に技術革新が求められる自動車の生産は現在でも日本国内で盛んであり、基幹産業の一つとして挙げられる。
159-160	69	①図でキリスト教徒の割合が高い地域では、⑤図でどのような言語が公用語になっている傾向が見られるだろうか。歴史的な背景を意識しながら読図しよう。	欧米諸国の言語 (英語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語など)	2つの地図の情報を組み合わせて地理的事象を空間軸・時間軸の両方から捉える能力を身につけるための初歩的な問いとして設定した。また、植民地支配や欧米中心主義など歴史総合の学びとも関連付ける。



地図帳のページ	問いの番号	問題	解答	ワンポイント解説
159-160	70	在留外国人はどのような特徴の地域に集中しているだろうか？また、在留外国人の出身地で一番多い国はどこだろうか？	雇用・教育機会が豊富で経済活動が盛んな三大都市圏に集中している。また、日本全体においては中国出身者が最も多い。	経済活動が活発で雇用・教育の機会などが豊富な地域に人口が移動・集中するという傾向性は、在留外国人にも当てはまる。「人は何を求めて移動するのか」という概念的知識の理解にも繋げる。
161-162	71	識字率が低い地域はどこだろうか。また、その理由を②図や⑤図も手がかりにして考えてみよう。	アフリカ大陸のサヘル地域が特に低い。貧困や紛争などにより学校に通えず、文字の読み書きを学ぶ機会が乏しいことが原因である。	貧困の悪循環への理解を深めるための問いでもある。貧困や紛争などにより学校に通えず、文字の読み書きを学ぶ機会が乏しく、ゆえに将来的に安定した仕事につけず貧困が再生産されるリスクが高いことに気づく。
163-164	72	六つの州のうち、①図から最も人口が多い州を確認して、将来的に人口がどのように変化するかを、③・④図から考えよう。	アジア。将来的に人口は緩やかに増えてやがて停滞すると考えられる。	アジアでは、国際分業体制や自由貿易のもとで経済成長をしている国が多いが、それゆえに急速な人口転換がみられ少子高齢化が進行していくことを確認する。
163-164	73	⑦図から日本で人口が集中している地域を確認しよう。また、その地域は⑨図とどのような関係があるのかを読み取ろう。	日本の人口は三大都市圏に集中しており、次いで地方中核都市に集中している。これらの地域は、老年人口の割合が相対的にみて低い。	三大都市圏や地方中核都市は企業や官公庁が集中しているため、生産年齢人口が集まりやすい傾向にある。複数の資料から読み取れること、さらにはその理由を考察する。
165-166	74	穀物自給率が低い国のうち、成人肥満率が高い国を探そう。どのような地域に偏っているだろうか。	西アジアや北アフリカでみられる。	乾燥した気候のために穀物の栽培に適していないこと、食の多様化、伝統的な価値観などさまざまな理由が背景としてあり、自然環境と社会環境の双方から考察することができる。
167-168	75	ファバーラ（スラム）の記号を確認して、都市の中のどのような場所に形成されているか読み取ろう。	都市内部に点在しており、住宅地には不向きな丘の斜面や、高級住宅地に隣接しているものもある。	都市の中でも住宅地としての条件の悪い土地に点在している様子を捉える。
167-168	76	1950年から2020年にかけて、凡例にある区市の人口はどのように変化したか、理由と合わせて考えよう。	1950年代から郊外の新興住宅地（三鷹市）で人口が増え、より遠方（多摩市）へと住宅開発が進んだ。2000年以降はバブル崩壊によって地価が下がった都心近く（中央区）で高層住宅の開発が起こり人口が増加した。都市圏の辺縁部（銚子市）は住宅開発の影響は少ないが、減少傾向にある。	都市圏の人口増減の様子を、都心、郊外、辺縁部といった地域ごと、かつ住宅地開発の時間軸の中で捉える。
169-170	77	日本、中国、EU主要国は、それぞれ鉄鉱石をどの国から最も多く輸入しているだろうか。	日本や中国はオーストラリア、EU主要国はブラジルから最も多く輸入している。	質の良い鉄鉱石を求めて近接性の高い国から海上輸送していることを捉える。合わせて、特に中国や日本では世界的にみて粗鋼の生産量が多いこと、鉄鉱石の分布から、オーストラリアやブラジルなど楕状地が卓越しているところと関連していることを読み取る。
169-170	78	1人当たりエネルギー消費（供給）量が4000kg以上の国は、どのような特徴があるだろうか。	先進国、資源産出国、寒冷な地域にみられる。	エネルギー消費は、単に経済水準の高い先進国という観点だけでなく、気候条件、産業構造、資源の豊かさなど、さまざまな要因が関わっている。地理的な見方・考え方である「人間と自然の関わり」や「地域の特徴」をもとに考察する。
171-172	79	先進国と発展途上国における現在の1人当たり排出量と、現在に至るまでの排出量の推移の違いを、②図と③図から読み取ろう。	現在は、発展途上国よりも先進国で1人あたりの二酸化炭素排出量が多い傾向がみられる。一方で、現在に至るまでの推移をみると、先進国の排出量は横ばいで近年は減少傾向にあるが、発展途上国の排出量は経済発展によって急速な増加傾向にある。	先進国の豊かな暮らしは、大量の資源・エネルギーを消費することで成り立ってきたが、開発途上国はこれから経済発展によって豊かな暮らしに向かっていく段階であることを理解する。そのうえで、地球的課題の解決のためには、利害が対立することがある各国・地域間が合意形成を行うことも大切であることに気づく。
175-176	80	地球温暖化で海水面が5m上昇すると、どのあたりまで浸水するだろうか。QRコンテンツから自分が暮らす都道府県を確認しよう。	省略	GISを使うと世界や地域の課題が見つけやすくなることを、人口や経済活動が集中している海沿いの低地を中心に水没する危険性があることを読み取りながら理解する。